

運輸総合研究所 第149回運輸政策コロキウム
バンコクレポート ～スタートアップシリーズ その4～
アジアの都市交通の新たなステージ



～バンコクにおける鉄道・バスの結節機能に関する現状と今後の動向～

福田 敦

日本大学理工学部システム工学科教授



<略歴>

1988年に日本大学理工学部助手に採用されて以降、31年に渡って交通計画分野で教育、研究に携わり、2005年から現職。1989年から1991年の2年間、JICA長期専門家としてタイにあるアジア工科大学に派遣され、助教授として勤務した経験を持ち、これ以後開発途上国、特に東南アジアを対象とする多くの政府開発援助案件に関わる。交通分野においてクリーン開発メカニズム、開発途上国による適切な緩和行動および二国間排出取引制度の実行可能性調査、特に都市鉄道のための「温室効果ガス排出量の測定、報告及び検証」の方法論の作成に従事。最近では、JICAが実施したタイ国バンコク-チェンマイ高速鉄道整備事業準備調査、バンコク首都圏都市鉄道マスタープラン改定(M-MAP2)に係る情報収集・確認調査でアドバイザーを務めた。2008年にはそれまでの活動が認められ、土木学会から国際活動奨励賞を受賞、2019年にはバンコクの鉄道駅周辺でのウォーカービリティに関する研究でアジア交通学会からBest paper Awardを受賞